

平成27年度 第1回政策推進会議報告

日 時 4月3日 9時30分～10時45分

場 所 4-1会議室

出席者 20人

(冒頭、市長より新たなメンバーについての報告)

今年度から中川教育次長と郷司健康福祉局参与に参加いただくこととした。教育については今年度から総合教育会議が設置され、市長部局と教育委員会との連携をさらに強めていくことにしており、また健康福祉局についても急務の課題を抱えている。局長級全員揃って情報を共有し、活発に意見交換して行く場にしたい。

1 尼崎市職員のワークライフバランスの推進に関する報告書及び尼崎市特定事業主行動計画の改訂について

総務局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・まずは各局の中で何ができるのかを考えないといけないが、中心的な業務、例えば、議会審議、予算編成、部門別計画の評価の一元化などの組織横断的な課題については、業務改善推進委員会などを通じて継続的に検討を行っていただきたい。

大きな問題については、当然、企画管理課長会だけではなく、あらためて政策推進会議に図ることも必要と考えている。

(市長) そのとおりであり、議会関係と予算編成関係の事務が特に大きい。また一方で、システムのオープン化により業務改善を行うこととしており、これについては別途全庁的に、抜本的に取り組んでいきたい。各局ごとに超過勤務時間に大きな差があり、一律の目標を掲げても意味がない。局ごとの特徴を踏まえた取組みを設定してほしい。単に労働時間を縮めるのではなく、その範囲に仕事を収めることが重要である。そのためには相当な業務改善に取り組むことが必要であり、決意を持って取り組んでいきたい。

補足だが、資1-15について、係長、課長補佐では、特に男女差もなく超過勤務が多い。今年度から課長補佐以下は超過勤務手当の支給対象となることもあり、もう一度マネジメントの強化をお願いしたい。

抜本的な業務改善を進めるにあたっては、いろいろと課題が出てくると思うが、業務改善推進委員会でしっかりその課題を吸い上げ、場合によっては政策推進会議でも率直に意見を出していただきたい。

- ・ワークライフバランスは、労務管理的な話になりがちであるが、それだけではない。働くことは何かということ考えることが重要である。職場でお互いを理解し合える関係性があることによって救われたり支えられることがある。人が仕事を通じて育ち合える環境を何とか組織として作っていただきたい。もう一点、「ライフ」を単に私生活ととらえないでほしい。仕事は仕事、私生活は私生活という意味のライフではなく、地域社会での生活や全てを含め

てライフであることを意識してほしい。また、地域社会におけるワークライフバランスも考えないといけない。個別の職員が地域社会へ出るときにそういう観点をもって地域社会を見ることも考えていただきたい。

2 尼崎市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）（素案）に対する市民意見公募手続の実施について

市民協働局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・さまざまな数字の説明があり、「国保では」という説明があったが、高齢になると一般的には国保に移管されるので、高齢者の場合は、国保データと市民データが同等である。しかし一方で、市民には国保以外の人もある。国保のデータといいながら、場合によっては全体データを取っていることもあると思うが、そのあたりが分かりにくい。

まだまだ不完全な面がある。国保においてはKDB（国保データベースシステム）をリリースし始めているが、それがまだまだ不完全な状態である。国保のみで比較するのはなかなかできないので、現在は全国平均、兵庫県平均などを活用している。今後マイナンバーが基盤的には整備されるので、将来的には在住地のデータとしてフィードバックされる可能性があるのではないかと思う。

- ・尼崎と兵庫県と全国の死亡者数の比較を行っているが、尼崎は高齢者が多いので、年齢調整をした方が比較しやすいのではないか。

まだそこまでの分析に至っていない。まずはマクロ的な集計を記載している。年齢調整ができるかどうかは確認する。

3 その他

- ・市民協働局長から、市政出前講座について説明。
 - ・市民協働局長から、みんなのサマーセミナーについて説明。
- （市長）市立高校の学生が、主体的に講師の招聘等をできればいいと思う。また、市立高校から何か講座を持ってもらうよう声をかけられないか。最初は受講する側で参加するのでもよいと思う。

以 上